

ツミ *Accipiter gularis* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

県内では1980年代に東三河の山地で繁殖が確認されており、その後も三河地方で繁殖期に数例の確認記録がある。1990年代に名古屋市内で繁殖が確認され、2010年代半ばまでは名古屋市内の何ヶ所かで繁殖が確認されていたが、この繁殖個体群はその生息環境の違いなどから、本来県内の山地で繁殖していたものとはかなり異なることで、関東の都市部で繁殖していた個体群の系統ではないかと推測された。しかし、現在この都市型の個体群が、名古屋市内や周辺の都市部で生息や繁殖を継続しているという報告はない。

【形態】

全長は雄が25～27.5cm、雌が28.5～31.5cm、翼開長51.5～62cmの雌雄二型。雄は頭部から背と翼上面にかけて暗青灰色、下面は白く胸から脇にかけて淡橙色で、目は暗紅色。雌は上面に暗褐色味を帯び、下面は白く胸から脇、脛にかけて暗褐色の細かい横斑があり、目は黄色く細い眉斑がある。幼鳥は雌に似るが、胸に縦斑があり脇の横斑は太くて粗い。飛行時は、他のタカ類に比べて頭が大きめで翼が短かめに見える。



愛知県名古屋市, 2010年7月8日, 浅井利明 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では夏鳥や旅鳥として飛来し、過去に山地や平地で繁殖が確認されている。冬期は大半が南へ渡るが、越冬期の確認記録も少ない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州で繁殖し、南西諸島に周年生息するものは、別亜種リュウキュウツミ *A. g. iwasakii* である。

【世界の分布】

中央シベリア南部からモンゴル北部、中国東北部、朝鮮、アムール地方、ウスリー地方、サハラで繁殖し、冬期は中国東南部、台湾、東南アジアなどに生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

丘陵地や山間部の混交林や、平野部の都市公園等に生息して繁殖する。主に小型の鳥類を捕食して、アカマツやヒノキなどで営巣することが多い。都市部での獲物は、スズメなど小鳥の巣立ちビナと思われる。県内では一年を通じて記録があるが、越冬期はその大半が南へ渡るものと思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内で繁殖が確認されているのは、山地と都市部の数ヶ所である。山地での繁殖期の記録は、ごく少数で確認が難しく、最近では都市部での繁殖も報告されていないが、現在も渡りの季節にはある程度の個体数が観察されている。都市部の繁殖個体が増加や定着ができなかった要因として、カラス類やオオタカなど、天敵の繁殖分布も都市部に進出して拡大していることが推測される。

【保全上の留意点】

現在山地で繁殖していると思われる個体群を調査することは必要であり、都市部で繁殖が継続できなかった要因等についても、写真撮影者などの影響を含め、改めて調べてみる必要がある。

【特記事項】

国内では1980年代半ば以降、関東の都市近郊を中心に繁殖記録の報告が相次いだ。1991年以降は横ばいで推移した後、1990年代後半からは減少傾向にあるとされている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.70-71. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)